

夢のかけはし

目指すは賞金女王 夢を乗せて走り出す



鹿屋女子高校情報ビジネス科の3年生。曾於市財部町の自宅から通学している。趣味はYouTubeや韓国ドラマを見ることと寝ること、いつまでも寝られる。目標とする競輪選手は兄玉碧衣選手。兄は現役の競輪選手。(17歳)

小学2年生のとき、兄がトライアスロンをしている姿を見て、おもしろそうだと思い私も始めました。自転車ですピードに乗って人を追い越すのが楽しいと感じ、中学生からは自転車競技に絞り取り組んできました。当時は父や兄と長い距離を走る練習に励み、プロサイクリングチーム「CIELE BLUE KANOYA」のジュニアとしても練習を行っていました。そのため、この頃大会で出た種目も長距離を走るロードレースが中心。中学生の頃は全国大会で7〜9位程でした。

高校では最初からトラック種目に専念しました。ロードよりも距離が短く、スピードに乗れるトラックのほうが好きだったからです。毎日、通学時に自転車に乗っていたほか、夜は自宅に帰ってから父や兄と公道を走るなどし、休日は南大隅町の自転車競技場を使って練習していました。しかし、1年半ほど前から感染が拡大した新型コロナウイルスの影響によって大会の多くは中止になり、この時期はモチベーションを保つのが難しかったです。そのような中、励みになったのは全国の舞台で切磋琢磨してきた仲間たちでした。連絡を取りあい、励まし合ったことが、日々練習を行ううえで力となりました。最も良い成績を残せたのは、昨年行われたインターハイの代替大

自転車競技選手

谷元音羽さん

会となった「2020 JCSPA ジュニアサイクルスポーツ大会全国大会」での2位。今年のインターハイでも3位になりました。高校を通して、日本一を目標に練習をしてきた中で2位という結果でしたが、うれしかったです。今後は、小学生のときにレースを見てからずっと憧れていた、競輪選手になりたいと思っています。試験に合格して静岡県の日本競輪選手養成所に入らなくてはいけません。不安もありますが、残り少ない高校生活を楽しみながら、賞金女王という夢に向かって突き進んでいきます。



【右】常に前傾姿勢でペダルを踏むため、特に腰への負担が大きい。
【左】今年のインターハイでは、2kmインディヴィデュアルパーシュートで3位になり、表彰台に上がった。(写真右)